

2025年度年間指導計画

		園長	主任	記録者			
		山本美紀子 中尾輝華					
【1歳児】							
年間目標	子ども（育てたい）	・保健的で安全な環境の確保と個々に応じた関り方をする事で快適に過ごせるようにする。 ・生理的欲求や依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・保育者と関りながら身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる。 ・保育者と関りながら友だちとの関り、遊びの中での言葉のやり取りを楽しむ。 ・歩行の完成と運動機能の発達を促し、外界に対する興味、関心を育てる。	園目標	・元気で明るい子（たっぷり遊んで、よく食べて、ぐっすり眠る） ・意欲を持って行動できる子（十分に育ちを見守られながら、さまざまな体験を通して、豊かな感性を育てる）	評価・反省		
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）		3期（9月～12月）	4期（1月～3月）	
行事	入園式・進級式、誕生会、こいのぼり集会、内科健診、避難訓練		懇談会、誕生会、水遊び、七夕、夏祭り、歯科健診、避難訓練		お月見、クリスマス会、内科健診、運動会、誕生日会、避難訓練		
ねらい	・新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者や友だちと一緒に過ごす心地よさを感じる。 ・身の回りの様々なものに興味を持ち、関わろうとする。		・水や砂などの感触を楽しみ、夏ならではの遊びに興味を持つ。 ・保育者や友だちに関心を持ち、遊びを真似、見立て遊びを楽しむ。 ・歩行が完成し、安全で活動しやすい環境の中で自分なりに活動範囲を広げる。		・簡単な身の回りの事を自分でしようとする。 ・遊びや生活を通して、友達との関りを楽しむ。 ・秋の自然に触れながら、室内外で全身を使って遊ぶ。		
養護	生命	・保育者との1対1の関りを深めながら、安心して自分の気持ちを表し信頼関係を築いていく。 ・個々のリズムに合わせた生活環境の中で、快適に過ごす。 ・適度な疲労感や心地良い雰囲気の中で安心して眠る。 ・簡単な言葉や表情、身振りで、自分の気持ちを保育者に伝えようとする。		・こまめに水分補給し、シャワーで汗を流す気持ちよさを感じたり、休息を十分に取入れながら、無理なく過ごす。 ・物の取り合いが起こった時には、保育者が代弁したり、仲立ちするなどして貸し借りを経験していく。 ・簡単な言葉や表情、身振りで、自分の気持ちを保育者に伝えようとする。		・季節の変わり目による体調の変化に十分に注意してもらいながら、手洗いなどを進んで行き、健康に過ごす。 ・「自分で」という気持ちを大切に、保育者に見守られながら達成することで「できた」時の満足感、嬉しい気持ちを共有する。	
	情緒					・体調に留意しながら寒い時期を健康に過ごす。 ・「やってみよう」「やって欲しい」など、それぞれの思いに寄り添ってもらい主体的に身の回りの事に取り組もうとする。 ・自分で手を洗ったり顔や口を拭いたりしてきれいになることを喜ぶ。	
教育	言葉健康	・ゆったりとした心地よい雰囲気の中で安心して眠る。 ・オムツ替えや着替えをして、気持ちよさを感じ、快適に過ごす。 ・保育者や周りにいる友だちと、親しみのある歌や手遊びに合わせて、体を揺らして、楽しむ。 ・春の草花や虫などに触れながら、探索活動を十分に楽しむ。 ・散歩先や園庭、室内で、風船やボールなど様々な道具を使い、全身を動かして遊ぶ。 ・散歩などで凸凹道や坂道をバランスを取りながら歩くことを楽しむ。 ・「どうぞ」「ありがとう」などのしぐさや言葉を、遊びのやり取りの中で保育者と楽しむ。		・オムツが汚れた不快感を感じ、しぐさや簡単な言葉を伝えようとする。 ・自分のマークを覚え、帽子やエプロンを取り出したり、しまおうとする。 ・友だちのしていることに興味を持ち、真似して遊ぼうとする。 ・保育者とやり取りをしながら、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 ・親しみのある絵本や紙芝居を通して言葉の繰り返しを楽しむ。 ・シャワーや水遊び、泥遊び、泡あそびを楽しみ、気持ち良さや解放感を味わう。 ・排泄の前後でオムツやズボンの脱ぎ着をしようとする。 ・粘土、小麦粉、片栗粉、こおり水など色々な素材を使った感触あそびを楽しむ。 ・保育者と関わる中で言葉を覚え、要求や自分の気持ちを簡単な言葉で伝えようとする。 ・トイレに興味を持ち、便座やオマルに座ってみようとする。 ・クレヨンや水性ペンを使ってなぐり描きをしたり、シールを貼ったりなど手先を使った遊びを楽しむ。		・保育者の援助や言葉掛けのもと、靴や靴下を自分で履こうとしたり、簡単な着脱をしようとする。 ・自分のマークを覚え、帽子やエプロンを取り出したり、しまおうとする。 ・走る、よじ登る、ジャンプする、ぶら下がるなど様々な体の動きを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、友だちと同じ遊びを楽しむ。 ・散歩などで、でこぼこ道や坂道などを歩き、草花や虫など秋の自然の様子を感じる。 ・渡ったり登ったり降りたり、好きな遊具に関わり、全身を使って遊ぶ事を楽しむ。 ・好きな絵本を読んでもらう事喜び、絵本を保育者のもとに持ってきたり「よんで」などと言葉で伝えようとする。 ・排泄の前後でオムツやズボンの脱ぎ着をしようとする。 ・玩具やいろいろな道具を使って見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・トイレに興味を持ち、便座やオマルに座ってみようとする。 ・リズムや体操などを通して色々な体勢になったり、音に合わせて体を動かす事を楽しむ。 ・鈴を使った簡単な楽器遊びを楽しむ。 ・保育者と言葉のやりとりを楽しんだり二語文で伝えようとする。 ・気の合う友だちや異年齢児に関心を持ち、関わろうとする。 ・自分で石鹸液を使って水道で手を洗い、ペーパータオルで拭こうとする。	
	表現関係	・ハイハイやつかまり立ち、伝い歩きをし、体位により見える視界の違いを楽しむ。 ・名前を呼ばれたら身振りや声で返事をする。 ・歌や手遊び、絵本などで保育者と触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ・遊びを通して異年齢の関りを楽しむ。 ・介助してもらい、せっけん液を使って水道で手を洗う。		・遊びを通して異年齢の関りを楽しむ。 ・名前を呼ばれたら身振りや声で返事をする。 ・介助してもらい、石鹸液を使って水道で手を洗う。			
環境構成	環境	・一人ひとりの発達や様子に合わせて玩具の準備や環境設定を行い、休息をしっかり取りながら遊べる様にする。 ・一人ひとりの生活リズムを把握し、子どもの要求や不安な気持ちを受け止め、信頼関係を築くようにする。 ・子ども達が十分に活動に取り組めるように時間設定に配慮する。		・保育者も一緒に見立てや模倣遊びを楽しむことでイメージしやすくし、遊びが豊かな物になるように配慮する。 ・自己主張が強くなり、物の取り合いが起きたり、噛みつきが増える時期だということを理解し職員の配置や環境設定に配慮する。 ・子どもの気持ちや伝えたいことを言葉にして返し、言葉の表現へとつなげていく。 ・個々の排泄のタイミングや様子に応じて、トイレへ誘いトイレで出た喜びを共有し、楽しい雰囲気での排泄を心掛ける。		・成長に伴い、行動範囲が広がるので、子どもの動きを予測しながら、安心、安全な環境を整える。 ・自分でしようとする気持ちを大切にし、さりげない援助で達成感や自分でできた喜びを味わえるようにしていく。 ・保育者も一緒にになり、曲に合わせて止まったり動いたりリズムに合わせて体を動かすことで楽しさ面白さを知らせていく。 ・トイレで出た喜びを共有し、楽しい雰囲気での排泄を心掛ける。	
	配慮					・同じ遊具を複数用意したり、十分な場所の確保するなどして、一緒に遊べる空間を作る。 ・自我の育ちを見守り、身の回りのことをしたい気持ちを受け止めて言葉をかけたり、褒めて意欲や自信へとつなげる。 ・片言に共感したり簡単な言葉のやりとりを楽しんだりして語彙数がより増えていくよう関わる。 ・子どもの興味に合わせて玩具を調節し、落ち着いて遊べるようコーナーを充実させる。	
支援者	保護者	・園での様子や家庭での様子、生活リズムなどを互いに伝え合いながら園と家庭との生活を繋げ、信頼関係を育てていく。		・噛みつきやひっかきは成長段階で生じるものであることを伝え、クラスでの対応を知らせていく。 ・暑さで疲れや生活リズムが乱れやすいので健康状態や食欲の有無、睡眠などの情報を共有する。		・流行している感染症やその対策など、子どもの様子を伝え合い、家庭との連携を密にしていく。 ・気温差があるので、調節や着脱のしやすい衣服を用意してもらう。 ・自己主張する姿を受け止め、共感しながらかかっていることを伝え、子どもの発達を理解してもらえるようにする。	
	食育	・一人ひとりの食事の様子を知り、食事の量や具材の大きさを変えするなど、食べやすいように配慮する。 ・落ち着いた雰囲気の中で保育者に食べさせてもらったり、手づかみやスプーンで食べようとする。 ・食前、食後の挨拶を動作や言葉で表そうとする。		・楽しい雰囲気の中で、友だちや保育者との食事を楽しむ。 ・自分で食べようとする姿や、食具を使おうとする姿を認め、食べる意欲がもてるようにする。 ・収穫した野菜を見たり、野菜スタンプ製作等を通して本物に触れ食材に親しみを持つ。		・空腹や満腹を感じながら、食事する事を楽しむ。 ・量を減らしてもらったり周りから励まされたりしながら苦手な物も少しずつ食べてみようとする。 ・食具の持ち方やスプーンの一口量を知らせてもらいながら意欲的に食べる。 ・食前、食後の挨拶を動作や言葉で表そうとする。 ・収穫した野菜を見たり、野菜スタンプ製作等を通して本物に触れ食材に親しみを持つ。	
		・身の回りのことを自分でやろうとする姿を伝えるとともに、甘えたい気持ちを受け止め、思いに寄り添う大切さも共有する。 ・保育者や友だちとのやりとりの様子を丁寧に伝え、子どもの成長を感じられるようにする。					